

資料室だより 158

橋本先生の遺品よりソプラノのためのソロ・カンタータ、ソロ・モテットなどをご紹介します。たぶん先生ご自身も勉強されたと思われます。楽譜には先生の署名があります。古い楽譜ですが名曲ですので皆さんにも活用していただきたく思います。

+Weiland,J.J.:Amor Jesu Barenreiter

ソプラノまたはテノール独唱、ヴァイオリン、ヴィオラ・ダ・ガンバ、通奏低音のためのソロ・カンタータです。作曲者についてはほとんど知られておりません。1663年に没している無名の作曲家です。この作品についても校訂者のLänginがヴォルヘンビュッテルの図書館で発見してコピーをしたものです。テキストは中世後期のイエスへの親密な信心（私はクレルボーのベルナルの影響を感じ取ります）が濃厚です。

+Charpentier,M.A.:Jesu corona virginum Broekmans

こちらは有名なシャルパンティエのモテットです。典礼的には乙女共通の記念日に歌われるイムヌスです。ソプラノとメゾソプラノ、フルート、通奏低音という編成です。

+Es ist g'nug; Geistliches Konzert Hänssler

これは作者不詳のカンタータでソプラノ・ソロ、2つのヴァイオリンと3つのヴィオラ・ダ・ガンバ、通奏低音のための作品で1664年に成立と推定されています。シュッツとブクステフーデの間の時代に沸き上がったドイツの独唱声楽曲の最も力強い表現の再発見と言われています。この楽曲はウプサラ大学図書館のデューベンコレクションのなかに写本が残されています。テキストは旧約聖書、列王記19:4、「主よ、もうじゅうぶんです」というエリアの苦悩の訴えです。

オリジナルのファクシミリも付され校訂報告がきちんとされた良質なエディションです。

+Huber,K.:Kleine deutsche Messe 1969 Bärenreiter

これは先生の遺品ではありません。先生の遺品のなかにフーバー氏のミサ曲のコピーがありましたので購入しなおしました。先生と親しかったフーバー氏のミサ曲は厳格に典礼的作品なのでその性格を損なわないで演奏するようにと作曲家の指示があります。

杉本ゆり 記